

第3回 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度検討会議  
議事要旨（案）

1. 日 時 2020 年 1 月 7 日（火） 10：00～12：00

2. 場 所 中央合同庁舎 8 号館 416 会議室

3. 出席者※敬称略

座長	永田 恭介	筑波大学長、一般社団法人国立大学協会長
副座長	安宅 和人	ヤフー株式会社 CSO、慶應義塾大学環境情報学部教授
	安西 祐一郎	独立行政法人日本学術振興会顧問、A I 戦略実行会議座長
	五十嵐 悠紀	明治大学総合数理学部先端メディアサイエンス学科専任准教授
	漆 紫穂子	品川女子学院理事長
	岡本 和夫	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構顧問
	北野 宏明	一般社団法人日本経済団体連合会イノベーション委員会 A I 活用戦略 T F 主査、株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所代表取締役社長、A I 戦略実行会議構成員
	草野 隆史	株式会社ブレインパッド代表取締役社長、一般社団法人データサイエンティスト協会代表理事、一般社団法人日本ディープラーニング協会理事
	神成 淳司	慶應義塾大学環境情報学部教授、A I 戦略実行会議構成員
	杉山 将	理化学研究所 革新知能統合研究センター長、東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
	竹村 彰通	滋賀大学データサイエンス学部長
	椿 広計	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研究所長
	長谷山 美紀	北海道大学数理・データサイエンス教育研究センター長
	村田 治	関西学院大学長
	ルゾンカ 典子	ソニー銀行株式会社執行役員

有識者

須藤 修 東京大学大学院情報学環教授、人間中心の A I 社会原則会議議長

辻 太一朗 株式会社履修データセンター代表取締役

オブザーバー

小池 雅行 独立行政法人情報処理推進機構 I T 人材育成センター企画部長

#### 4. 議題

- (1) 第2回会合の主なご意見等について
- (2) 有識者からのご発表
- (3) リテラシーレベルの教育プログラムについて
- (4) 意見交換
- (5) 今後の予定

#### 5. 資料

資料 1 須藤氏ご発表資料

資料 2 辻氏ご発表資料

参考資料 1 第 2 回 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度検討会議議事要旨  
(案)

#### 6. 議事要旨

- (1) 第 2 回会合の主なご意見等について

冒頭、永田座長の挨拶の後、事務局より第 2 回会合でのご意見等について参考資料 1 に基づき説明があった。

- (2) 有識者からのご発表

東京大学須藤教授（人間中心の A I 社会原則会議議長）より資料 1 に基づき A I 倫理および関連する諸外国の動向等について、株式会社履修データセンター辻代表取締役より資料 2 に基づき大学の履修・成績情報の活用による大学と産業界の連携等についてご発表があった。

- (3) リテラシーレベルの教育プログラムについて

事務局より、認定制度設計の参考のため構成員にご検討いただいた、リテラシーレベルの数理・データサイエンス・AI 教育の学修目標、受講対象者、プログラムの備えるべき要素についての考え方等について報告があった。

#### (4) 意見交換

事務局より、第3回検討会議でのご意見等をふまえ修正した数理・データサイエンス・AIの優れた教育プログラムについての基本的考え方、リテラシーレベルの数理・データサイエンス・AI教育に係る認定制度の設計に関する論点を提示、認定対象やリテラシーレベルの教育プログラムの備えるべき要素等について、構成員による議論が行われた。

(以下は、その中での意見の例)

- 各大学が育てたい人材像に応じて多様な教育プログラムをつくり、実践することをエンカレッジすることが必要ではないか。
- 正規課程として単位認定されるプログラムを認定対象とすべきであるが、大学等の特性によってカリキュラムの一部であったり、学位プログラムの一部であったりすることもあるので、多様なスタイルが認められるべきではないか。
- 外部教員の活用を認めることや、教育プログラムを総括する専任教員はいた方がいいが兼務を認めるなど、明示すべきではないか。

#### (5) 今後の予定

事務局より今後の予定について説明があった。

以上